

それが他人事でないことだけは、忘れないでほしい。

窓から噴き出す真っ赤な炎、一面にたちこめる黒煙。まだ記憶も新しい去る8月、東京都内で発生した28階建て高層マンションで起きた火災は、我が国の共同住宅では最も高い場所での火災でした。幸いなことに大惨事にはあたりませんでした。高層マンションやビルが急増する昨今、改めて高層ゆえの火災の怖さを思い知らされました。このマンションでは、避難訓練も行われていたようですが、住民はほとんど参加していなかったともいわれています。私たちは、ややもすると「わが家だけは大丈夫」という危険な考えにおちいりがち。しかし、この火災は、改めて防災対策と心構えの必要性・重要性を教えてくださいました。突然襲ってくる災害。私達は、いつも安全な所にいるとは限りません。災害発生そのときに備え、日頃から防災準備をすることはもちろん、いつ、どこにいても安全な行動がとれるよう心掛けておきましょう。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



1989	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
10	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31

■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。



かわさき NO
防災広報紙

1989年(平成元年)9月30日発行
 発行◎川崎市
 編集◎土木局防災対策室
 〒210川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL. (044) 200-2111内線2841

62



ここでの備えがあれば、行楽はもっと楽しくなる。

行楽のシーズン到来。家族で、職場でと、楽しい旅行の計画がたくさんあると思います。でも心配なのは、宿泊先での火災や地震。

災害から身を守るため、最小限「これだけは」という心得を身につけておきましょう。

旅館・ホテルに着いたら、まず、次のことを確かめておきましょう。

こんなところで地震にあつたら

1 商店街・ビル街などにいたら

- ガラスの破片、看板、ネオンサインなどの落下物に注意する。
- ハンドバッグ、買物袋などで頭を守り、近くのビルに逃げ込む。
- 住宅街では屋根瓦の落下、ブロック塀の倒壊に気をつけ、狭い路地や倒れそうな建物の近くから離れる。

2 デパートなどにいたら

- 照明器具などの落下物に注意し、倒れやすい陳列棚から離れる。
- 店員の指示に従って行動する。
- 階段の踊り場や廊下、太い柱のわきが安全。

3 エレベーターに乗っていたら

- 地震、火災の時は使わない。
- 乗っている時には、押しボタンをすべて押して、一番近い階で安全を確認して降りる。
- 停電等で止まったら、インターホンを使って連絡する。無理に出ようとしない。

4 地下街にいたら

- 停電になっても、非常用照明灯がつくので動揺しない。

5 電車に乗っていたら

- 30m以内に出口があるので、あわてないで警備員の指示に従う。
- 地震が起きたら、背もたれ、吊り革、柱などにつかまり、身を守る。
- 乗務員の指示に従い、あわてて外に出ない。
- 外に出て避難する時は、垂れ下がっている電線に触れない。

6 混雑する駅にいたら

- ホームに立っていたら、頭上の表示板や照明器具の落下から身を守るため、柱やベンチの陰に身をひそめる。
- 避難する時は、人の流れにさからわないで、流れに従う。

7 自動車の運転中だったら

- ホームからの転落、階段での将棋倒しを防ぐため、絶対に押し合わず、駅員の指示に従う。
- 徐々に速度を落とし、道路の左側に停車して様子を見る。
- カーラジオで情報を聞く。
- 避難する時は、エンジンを止め、キーはそのままにして、必ず歩いて避難する。

いざというときの対応

- 自分の近くで火災が起きたら、すぐに非常ベルを鳴らし、フロントに連絡する。
- 着ているものなどは気にしないでそのまま避難し、一度避難したら引き返さない。

- 煙は上方ほど濃いもの。できる限り背を低くする。ぬれタオルが役に立つ。
- エレベーターは使わない。



「備える」(No.60)へこちらのお天気情報室(4)でお知らせしましたように、1年間に発生する台風の数平均26.9個、うち日本に上陸するのは3個ですが、伊勢湾台風から30年目にもあたる今年は8月末までです。すでに4個に達し、台風の当たり年と言つてよさそうです。

本市においても去る8月1日、集中豪雨の特徴でありますゲリラ的な豪雨に見舞われ、高津区蟹ヶ谷で土砂崩れ災害が発生し、住民の方3名及び救助にあたられた本市消防職員3名が亡くなられました。ここに哀悼の意を表すとともに、衷心よりご冥福をお祈り申あげます。

本市では、この6月に梅雨入り前の急傾斜地のパトロールを実施してありますが、8月の28、29日の2日間にかけて急傾斜地60箇所を含むがけ崩れ危険箇所101箇所のパトロールを行い、この調査結果を検討し、急傾斜地の見直しを図るとともに、事故を未然に防ぐため日頃から危険の認識を持つよう、付近住民の方にチラシを配布しPRを行いました。

川崎建設業協会が災害救助に活躍
大規模な災害が発生した場合の救助活動や復旧活動を円滑で迅速なものにするため、本市では、防災関係機関や他都市と応援協定を締結しております。

去る8月1日には、高津区蟹ヶ谷で発生した土砂崩れ災害に際し、川崎建設業協会高津特設作業隊に活動を要請しました。

多くの隊員と建設機械を投入され、白井隊長の的確な指揮のもとで日頃の機敏さと機動力を発揮し、連日の猛暑の中、汗と泥にまろれながら、災害救助活動に大活躍されました。ここにその献身的な奉仕活動を市民の皆さんに御紹介するとともに、隊長並びに隊員の皆さんの御苦労に対し心から感謝と御礼を申し上げます。